



FURUTECH **NCF**<sup>®</sup>  
PURE TRANSMISSION

**使って納得の画期的で嬉しいアクセサリー**  
**自在に応用&発展可能な新しい提案型**  
**フルテックNCF Boosterシリーズを使いこなそう**

愛用中のシステムが秘める本来の実力を手軽に引き出せる、画期的なアクセサリーとして話題沸騰中のフルテックのコネクター／ケーブルホルダー「NCF Booster」。より手頃な価格の姉妹品「NCF Booster-Signal」や、発展応用のためのオプションも相次いで新発売され、ますます用途の幅は広がっている。1個使って納得、新しいフレキシブルな合わせ技でさらに驚きの世界が切り拓かれる。ここでは、その複合効果を探ることにした。

Text by  
鈴木 裕  
Yutaka Suzuki  
Photo by 田代法生

互換設計のNCF BoosterとNCF Booster-Signalに、オプションを追加して複合させた「空中ケーブルタワー配線」の例。床からの振動やケーブル同士の干渉を排除し、弛みや垂れ下がりなど不安定なコネクターやケーブルの振動も効果的に吸収。さらに特殊素材「NCF」の複合効果で静電気も抑え、本来のパフォーマンスを最大限に引き出してくれる

**NCF**<sup>®</sup>

NCF(ナノクリスタルフォーミュラ)は、ナノ粒子化したイオン化する特性の強い鉱物を樹脂とハイブリッドした、フルテックが2015年に開発したオリジナル素材

●新製品のNCF Boosterシリーズ  
 新製品のSignalに加え  
 オプションも続々と新登場

画期的なオーディオアクセサリー  
 が発明されたのかもしれない。NCF  
 Booster、そしてNCF B  
 ooster Signalをテスト  
 しての率直な感想だ。フルテック自  
 身、おそらくそのことを認識してい  
 て、さまざまなオプションパーツも  
 用意されている。「Extension  
 n Shaft Bar(延長用支柱)」「  
 Top Clamp(錘)」「Crad  
 le Flat(フラット型ホルダ  
 ー)」といったパーツだ。

●新製品NCF Booster Signal  
 単体1箇所でも効果的だが  
 増やせば増やすほど魅力アップ

とにかくその音の変化をレポート  
 しよう。テストは本誌試聴室で行っ  
 た。まず新製品であるNCF Boo  
 ster Signal単体の効果  
 だ。RCAやXLR端子を下から支  
 えたり、ケーブルホルダーとして使  
 用する。CDプレーヤーの、プリア  
 ンプへ出力するXLRケーブルの端  
 子の下にひとつだけ使った。

相当な変化量があった。音の背景  
 が静かになり、高域の粉っぽい感じ  
 が収まる。さらに低音の量感成分が  
 減って、よりダイレクトな音に。音  
 の立ち上がりとしやがみが明確にな  
 っている。全体に分解能も上がって  
 いるが、音がほぐれて、本来の硬い  
 /柔らかいといった音の感触にすい

いままでの方法では到達できなかつた、次元の違うクオリティが現れて驚かされる



FURUTECH コネクター／ケーブルホルダー  
NCF Booster (¥32,800・税別、写真右)  
NCF Booster-Signal (¥19,800・税別、写真左)

電源用に好適な「NCF Booster」と、信号系など幅広く使えるフラットタイプの新品「NCF Booster-Signal」。オプションや組み合わせで複合させて工夫すれば、多様な使い方ができる



オプション「Top Clamp」(¥13,800、税別)。NCF Booster-Signalに追加し強化できる。ステンレスパウダーを基本材料とし、複数の特殊制振金属パウダーを調合、ナイロン樹脂と複合させ、質量は約295g



オプション「Extension Shaft Bar」(¥3,000/10本セット、税別)。1本あたりの高さは59.5mm、手でねじ込むだけで連結できる



オプション「Cradle-Flat」(¥12,000、税別)は、NCF Booster-Signalのケーブルホルダー部の単売品(シリコン固定リング2個付属)。フレキシブルな使用方法には欠かせないアイテムだ



同じブランドの機器は電源端子の位置がほぼ似通った位置のため、タワー型に延長すれば共通でサポートすることも可能

使用例



支柱を延長し、電源系と信号系の端子を同時サポートするタワー型にした例。高さの関係でNCF Booster-Signalがコネクター直下部に填まらない場合は、少し後方のケーブル部をサポートしても効果が発揮



壁コンセントからの電源ケーブル、信号ケーブル、そしてスピーカーケーブル、全ての配線経路をNCF Boosterシリーズでサポートすると、理想の空中配線が実現できる

**[NCF Booster仕様]** ●トップクランプ素材：特殊ステンレスブロックとオーディオグレードNCF調合ナイロン樹脂 ●クレイドル：カーブタイプ ●外部サイズ：約94×99.7mm ●高さ：基本設定80mm / 延長設定で140mmまで調節可能(それ以上はオプション追加) ●質量：基本設定580g、延長設定630g

**[NCF Booster-Signal仕様]** ●クレイドル：フラットタイプ(一番低い位置での高さは44mm) ●外部サイズ：約94.1×99.7mm ●高さ設定：基本82.5mm、延長142mm(オプションでさらに追加可能) ●質量：基本約280g、延長約340g ※トップクランプは付属せず、別売

**[共通仕様]** ●構造：独自調合によるマルチマテリアルハイブリッド構造 ●ベースユニット素材：オーディオグレードABS樹脂、鉄製カウンターウェイト、シリコン注入・鉄製衝撃吸収プレート ●クレイドル素材：オーディオグレードABS樹脂とNCF調合ナイロン樹脂(静電効果) ●シャフトバー、シャフトバーキャップ、調節ネジ素材：ニッケルメッキ真鍮 ●付属品：エクステンションシャフトバー×2、シリコン固定リング×2

ぶん近づいている。空間表現力としては定位の前後の描き分けが明確化しているのも素晴らしい。さらに、大音量時の音の安定感がかなりいい。続いて、CDプレーヤーからのキヤノンの出力側だけでなく、プリアンプの入力側のXLR端子の下側にも使ってみる。NCF Booster Signalの2個使いということになる。

これまで、音自体の静けさ感、暴れのなさが顕著に向上。音の立ち上がるタイミングがさらに良くなっていく。一方でいい音の描き方で、しなやかさ、高級なニュアンスも出てきて、ソフト本来の音に近づいている感覚がある。印象としては、CD

D自体が高級な材質で作られたような感じの変化と言ったらいいだろうか。例えばシバルの金粉の飛び散るような感じがキメ細かくなったり、エコー成分の消え際が糸を引くようにきれいになっていく。あるいは、電源関係のノイズかと思っていた成分までが抑制されている。さらにNCF Booster Signalをパワーアンプの入力側のキヤノンの下に設置。3個使いだ。

音色の純度が上がるのはもはや想像の範囲だが、音色感のある種のテラテラしている感じが抑制されているのも興味深い。音像にまだあった付帯音がなくなり、ますます個々の音像の実体感が上がっている。グラ

ンカッサの最低域の音像がきちんと定位してくるのも驚異的だ。●オプションで効果をさらに高めるTOP CLAMPの追加でさらに圧倒的な情報量を再現

今度は、3つのNCF Booster Signalの上に、TOP Clampを乗せてみる。

テストの最初から段々と感じていたことだが、音量感が下がっている。いや、「感」ではなく、音圧計で計測してもきちんと1〜2dB下がっているほどの変化なのだ。おそらく付帯音の発生がかなりの割合で抑えられているのだろう。なかなか体験しない種類の音の変化だ。

極めて音像の定位が明確で、スピーカーアリスムの感じすら出てくる。瑞々しく、リアルな音で、分解能もすごい。最低域のガツツという音の立ち上がりの馬力感。密度が高くなり、みっちり実が詰まっている感じ。マルチマイクで収録したクラシックの、膨大な情報量が見える圧倒的な効果だ。

●電源部やスピーカーケーブルにも応用

最後に、タワー型に延長したNCF Boosterで、プリアンプとCDプレーヤーの電源ケーブルをダブルで固定。さらに、スピーカーケ